

令和3年度(2021年度) 研究員派遣による学校支援に関する研究(国語科)

児童が語彙を豊かにし、自分の考えを形成することができる 小学校国語科の授業づくり

－「読むこと」の学習における、語句に着目して考える指導の工夫－

内容の要約

本研究では、「読むこと」の学習において、語句に着目して考える授業づくりや語彙を豊かにする日常的な取組を行った。単元構想を行う際には、「考えの形成」の内容を具体的に描き、取り上げる語句を明確にした。そして「語彙を豊かにする場」の学習を「考えの形成」につながるように意図的・計画的に設定した。さらに、語句を増やすなどの日常的な取組を継続して行った。また、1人1台端末がそれらの学習に効果的に働くような活用方法についても考えた。このような語句に着目して考える指導の工夫に取り組むことにより、児童が語彙を豊かにし、自分の考えを形成することができた。

キーワード

語句に着目して考える
「考えの形成」

日常的な取組
「語彙を豊かにする場」

単元構想
1人1台端末

目 次

I 主題設定の理由	(1)	VI 研究の内容とその成果	(5)
II 研究の目標	(1)	1 質問紙調査から捉えた研究協力校の実態と課題	(5)
III 研究の仮説	(1)	2 「語彙を豊かにする場」を意図的・計画的に設定する単元構想	(5)
IV 研究についての基本的な考え方	(2)	3 語彙を豊かにし、考えを形成することができる授業の実際	(7)
1 「語彙を豊かにし、自分の考えを形成する」とは	(2)	4 語彙を豊かにする日常的な取組	(10)
2 「読むこと」の学習における、語句に着目して考える授業づくり	(2)	5 語彙を豊かにし、考えを形成することができた児童の姿	(10)
3 語彙を豊かにする日常的な取組	(4)	6 授業づくりに対する指導者の意識の変容	(12)
4 研究成果の検証について	(4)	VII 研究のまとめと今後の課題	(12)
V 研究の進め方	(4)	1 研究のまとめ	(12)
1 研究の方法	(4)	2 今後の課題	(12)
2 研究の経過	(5)	文 献	

語彙を豊かにし、自分の考えを形成することができる児童

語句に着目して文章を読み、
考えを形成する姿

「うつむいて」、「しょんぼりと」の言葉から登場人物の気持ちを考えてみよう！



考えをまとめるために、
多様な語句を用いる姿

わくわくする
夢中になる
ほれほれする

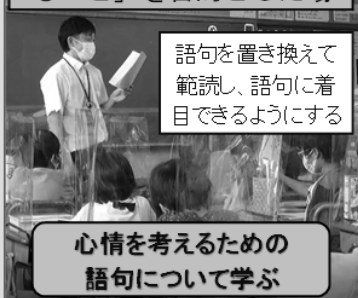


どの言葉が自分の考えにぴったり合うかな。

語句に着目して考える授業づくり

語彙を豊かにする場

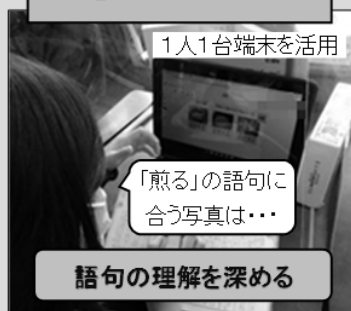
「語句のまとまりや関係、構成や変化について理解すること」を目的とした場



語句を置き換えて
範読し、語句に着目できるようにする

心情を考えるための
語句について学ぶ

「語句の量を増すこと」
を目的とした場



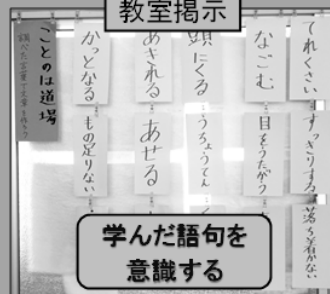
1人1台端末を活用

「煎る」の語句に
合う写真は…

語句の理解を深める

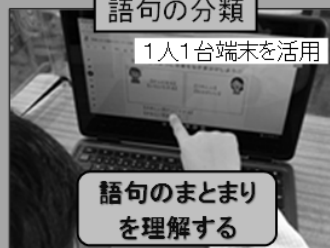
語彙を豊かにする 日常的な取組

教室掲示



学んだ語句を
意識する

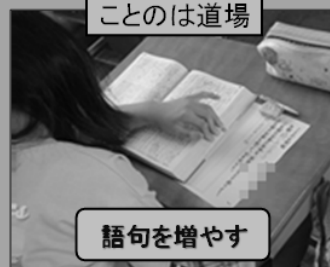
語句の分類



1人1台端末を活用

語句のまとまり
を理解する

ことのは道場



語句を増やす

単元構想

教材分析シートⅢ

取り上げる語句を
明確にする

「考えの形成」の内容
を具体的に描く

単元プランシートⅡ

「語彙を豊かにする場」を
意図的・計画的に
設定する

「読むこと」の学習における、語句に着目して考える指導の工夫

【第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン 取組の重点 小学校国語科(令和2年度)】

- ・意味を理解している語句の数を増やしたり、話や文章の中で使いこなせる語句を増やしたりする指導をしているか
- ・言語活動を設定し、自分の考えを形成する指導をしているか

【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編】

- ・語彙指導の改善・充実 → [知識及び技能] に語彙の指導事項が新設
- ・「考えの形成」の重視 → [思考力、判断力、表現力等] において、全ての領域で指導事項として位置付け

研究員派遣による学校支援に関する研究(国語科)

児童が語彙を豊かにし、自分の考えを形成することができる 小学校国語科の授業づくり

－「読むこと」の学習における、語句に着目して考える指導の工夫－

I 主 題 設 定 の 理 由

中央教育審議会答申(平成28年12月)において、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である」¹⁾と述べられ、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」¹⁾との指摘がされた。これらを受け、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編(以下、学習指導要領解説という。)では、「学習内容の改善・充実」に「語彙指導の改善・充実」および「『考えの形成』の重視」が掲げられた。語彙指導は〔知識及び技能〕において、指導の重点となる語句のまとまりが示されるとともに、語句の理解を深める指導事項を系統化したものが示されている。そして、考えの形成は〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程が重視され、指導事項として位置付けられている。

令和2年度には、滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課から学ぶ力向上に関する取組の重点として、小学校国語科では「意味を理解している語句の数を増やしたり、話や文章の中で使いこなせる語句を増やしたりする指導をしているか」²⁾「言語活動を設定し、自分の考えを形成する指導をしているか」²⁾という指導力点が示された。このように、本県においても語句に着目して語彙を豊かにする指導を充実させたり、考えの形成を行う授業づくりをしたりすることが求められている。さらに、令和3年度は「スピーチやプレゼンテーション等、考えたことを表現・共有する場面でICTを効果的に活用しているか」³⁾という指導力点が新たに示され、国語科の学習においても1人1台端末等のICTを効果的に活用することが重要となってくる。

児童が多様な語句に出合い、その働きや使い方を理解したり、変化を捉えたりするためには、実際に文章を読む活動を通して指導をする必要がある。そこで、本研究では〔思考力、判断力、表現力等〕の内容である「読むこと」の学習に焦点を当て、〔知識及び技能〕の指導事項である語彙の指導を行う。そして、児童が語句に着目して文章を読み、自分の考えを形成することができるようにしていきたい。その際には、1人1台端末の使い方を工夫し、学習で効果的に活用できるようにする。

II 研 究 の 目 標

「読むこと」の学習において、語句に着目して考える授業づくりや語彙を豊かにする日常的な取組を行うことで、児童が語彙を豊かにし、自分の考えを形成することができるようにする。

III 研 究 の 仮 説

「読むこと」の学習において、「考えの形成」の内容を具体的に描き、取り上げる語句を明確にした授業づくりを行う。また、語句を増やすなどの語彙を豊かにする日常的な取組を継続して行う。このような語句に着目して考える指導の工夫に取り組むことにより、児童が語彙を豊かにし、自分の考えを形成することができるようになるだろう。

Ⅳ 研究についての基本的な考え方

1 「語彙を豊かにし、自分の考えを形成する」とは

学習指導要領解説では、「語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである」⁴⁾と述べられている。語彙の指導事項は、「語句の量を増すこと」と「語句のまとまりや関係、構成や変化について理解すること」の二つの内容で構成されている。本研究では、単元の中で「語句の量を増すこと」と「語句のまとまりや関係、構成や変化について理解すること」を目的とした学習の場を「語彙を豊かにする場」と捉える。

また、「読むこと」の領域における「考えの形成」とは、「文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既存の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくこと」⁴⁾と学習指導要領解説に示されている。

以上のことを踏まえ、本研究では、「語彙を豊かにする場」での学習を基に、児童が語句に着目して文章を読んで考えを形成したり、自分の考えをまとめるために多様な語句を用いたりすることを、「語彙を豊かにし、自分の考えを形成する」と捉える。

2 「読むこと」の学習における、語句に着目して考える授業づくり

(1) 「語彙を豊かにする場」を意図的・計画的に設定する単元構想

ア 言語活動の中に「考えの形成」の内容を具体的に描き、取り上げる語句を明確にする

児童は単元の学習を通して自分の考えを形成していく。そのため、どのような言語活動を行っていくのが考えを形成していくうえで重要となる。言語活動の設定には、当センターの研究成果物である「教材分析シートⅡ」を改編した「教材分析シートⅢ」を用いる(図1)。まず単元での指導事項や、それにとまなう既習事項に関わる児童の実態を書く(図1の[A])。次に単元で扱う「教材の特性」や「教材としての価値」を書く(図1の[B])。それから、[A]と[B]を踏まえて、考えの形成に適した言語活動を設定する(図1の[C])。これらを通して、「考えの形成」の内容が具体的に描き出せると考える。

図1 「教材分析シートⅢ」

そして[A]、[B]、[C]を基にして、取り上げる語句を明確にする(図1の[D])。取り上げる語句とは、文章を読み進める際に着目して考える語句や、考えをまとめる際に用いる語句のことである。

イ 「語彙を豊かにする場」の学習を「考えの形成」につなげるように意図的・計画的に設定する

まず、児童が考えを形成するために、必要な学習活動を考える。例えば、単元の始めに見通しをもつ活動や、教材文の内容を正確に捉えたり、内容について考えたことを蓄積したりする活動、考えたことを見直したり、交流したりして確かなものにする活動などである。そしてそれらの活動において、児童が語句に着目して考えることができるように「語彙を豊かにする場」を設定し、単元を構想する。

図2 「単元プランシートⅡ」(一部)

具体的に単元を構想する際には、当センターの研究成果物である「単元プランシート」を改編した「単元プランシートⅡ」を用いる(図2)。「単元プランシートⅡ」では、具体的に描き出した「考えの形成」の内容や明確にした取り上げる語句を書き(図2の[A]および[B])、「語彙を豊か

にする場」の学習を「考えの形成」につながるように意図的・計画的に設定する。そして、「考えの形成」を行う時間には◎印を、「語彙を豊かにする場」の時間や「考えの形成」に特につながる時間には○印をつけて明示する(p. 2の図2の□C)。

このように単元を構想することで、児童が語句に着目して文章を読んで考えを形成したり、考えをまとめるために多様な語句を用いたりすることができるようになると思われる。

ウ 「語彙を豊かにする場」で行う学習の内容

「語彙を豊かにする場」での学習内容を目的に応じて以下のように分類する。

(ア) 「語句の量を増すこと」を目的とした場

当該単元における言語活動の中で、1人1台端末を活用するなどして調べる活動や読書活動などを取り入れる。その中で児童が多様な語句と出会い、自分の知っている語句の量を増やすことができるようにする。そして、新たに知った語句や使ってみたい語句を自分の端末やノート等書き留めるなどしておき、考えをまとめる際に用いることができるようにする。

(イ) 「語句のまとまりや関係、構成や変化について理解すること」を目的とした場

主に当該単元で扱う語句を取り上げて指導する。まず、取り上げる語句を具体的に提示する。そして、児童が語句について辞書や端末で調べたり、類義語や対義語を考えたり、動作に表したり、日常生活における使用場面を想起したりする場面を設定する。これらを通して、児童が文脈の中での語句の意味に気付き、その語句を手がかりとして文章の内容を理解したり、人物の心情や様子などを具体的に想像したりできるようにする。

(2) 語彙を豊かにし、考えを形成できたことが実感できる振り返り

学習の振り返りには、当センターの研究成果物である「学びの足あとシート」を改編して用い、語彙が豊かになったことや、自分の考えが形成できたことを実感できるようにする(図3)。

改編したシートでは、新しく知った語句や文章を読むうえで大切にしたい語句を「お宝言葉」として書き残す(図3の□A)。そして、その日の学習について、めあてと関連させ、分かったことや次の学習に生かしたいこと、「お宝言葉」を手がかりに考えたことなどを具体的に振り返る(図3の□B)。単元の終末には学習を通して大切にしたい語句や、それを基に考えたことなどを振り返る(図3の□C)。

図3 「学びの足あとシート」

これらを通して、単元の中でどんな語句が増えたり、理解を深めたりしたのか、また、どんな語句に着目して自分が考えたのかを確かめ、語彙を豊かにし、考えを形成できたことが実感できるようにする。

これらを通して、単元の中でどんな語句が増えたり、理解を深めたりしたのか、また、どんな語句に着目して自分が考えたのかを確かめ、語彙を豊かにし、考えを形成できたことが実感できるようにする。

(3) 1人1台端末の活用

1人1台端末を活用することで、児童は試行錯誤をしたり、それぞれの考えを比較・検討したり、学習したことを記録として残したりすることが容易になる。そこで、「語彙を豊かにする場」や「考えの形成」を行う際に、1人1台端末を積極的に用いる。

「語彙を豊かにする場」では、自分の端末を辞典と併用して意味調べで活用する。Web検索を用いれば、辞典の見出し語よりも長い語句のまとまりでその意味を調べることができる。さらに、語句を似た意味等で分類する学習では、端末上で操作をすることにより、児童が試行錯誤をしたり、他の児童の分類と比較をしたりすることが容易になる。

また、端末のカメラ機能で授業の板書や、ワークシートなどの学習過程を画像として保存をする。そして、「考えの形成」を行う際には、保存しておいた画像を見返すことで、これまでの学習内容を具体的に振り返ることができ、単元を通して学習してきたことに基づいた考えを形成することの一助となると考える。

3 語彙を豊かにする日常的な取組

語彙を豊かにするためには、日常生活の中で様々な語句に触れたり、学んだ語句を使いこなしたりすることが大切となる。

そのために、まず、語彙を豊かにするための言語環境を整える。具体的には、学習した語句やこれから学習する語句を教室に掲示したり、学級文庫の本を充実させたりして児童が多様な語句に触れられるようにする。

さらに、学習の土台作りとして、辞典や1人1台端末を活用して語句の意味を調べる活動や、学んだ語句を作文やスピーチ等で実際に用いる活動の時間を設定する。それらの活動における語句の意味理解や活用の状況についても、語彙を豊かにし、自分の考えを形成している姿として見取り、授業づくりに生かす。

4 研究成果の検証について

研究成果の検証にあたっては、言語活動の成果物や単元ごとの「学びの足あとシート」、児童質問紙調査などを用いて行う。

まず、単元を通して取り組む言語活動の成果物を基に、児童が語句に着目して文章を読み、理解したことに基づいて自分の考えを形成できたかどうかについて検証する。その際、成果物の具体的な語句の使用状況についても分析し、「語彙を豊かにする場」の学びを生かすことができたかどうかについても検証する。

また、「学びの足あとシート」や児童質問紙調査などでは、実践を通して、語彙が豊かになったことや、自分の考えが形成できたことについて、児童の意識の変容を見取る。さらに、指導者質問紙調査や聞き取りを行い、実際の児童の変容を客観的に見取る。

V 研 究 の 進 め 方

1 研究の方法

- (1) 国語科における児童・指導者質問紙調査などから、研究協力校の実態や課題を把握し、本研究の目標に沿って学校支援の内容を設定する。
- (2) 研究協力校の実態を踏まえ、「読むこと」の学習において、語彙を中心に据えた単元構想を行い、指導者と協働で授業づくりに取り組む。
- (3) 授業における児童の姿や振り返りを基に、指導者との協議を通して、授業改善に取り組む。
- (4) 学習に取り組む児童の様子や振り返りの記述、児童・指導者質問紙調査などから、児童が語彙を豊かにし、自分の考えを形成することができたかについて検証する。
- (5) 派遣研究協議会を実施し、各校での取組について交流・協議する。
- (6) 研究協力校での取組内容、成果と課題についてまとめる。

2 研究の経過

4月 4月～11月	研究構想、研究推進計画の立案 派遣研究(小学校2校、原則各校週1回派遣)	11月	児童・指導者質問紙調査(第2回)の実施と分析
6月	児童・指導者質問紙調査(第1回)の実施と分析	第2回派遣研究協議会(研究の成果と課題、研究のまとめ方)	
8月	第1回派遣研究協議会(1学期の取組の成果と課題、2学期の方向性)	11月～12月	研究論文原稿執筆
夏季休業中	2学期に向けた授業づくり	1月	研究発表準備
		2月	研究発表大会
		3月	研究のまとめ

Ⅵ 研究の内容とその成果

1 質問紙調査から捉えた研究協力校の実態と課題

研究協力校の児童に、国語科の「読むこと」における学習状況についての質問紙調査を6月上旬に行った。図4は「考えの形成」に関する質問項目の結果である。A小学校の第3学年の児童においては、肯定的に回答した児童は全体の45%であり、半数以上の児童が考えを形成することを「できない」と否定的に感じていることが分かる。また、B小学校の第5学年の児童においては、肯定的に回答した児童は全体の90%であり、多くの児童が考えの形成をすることを「できる」と感じていることが分かる。しかしB小学校の指導者は、感想をまとめる際に「何を書けばいいのか分からない」と困る児童が多く見られることから、児童は「感想を書けた」という結果だけを「できる」と認識しているのではないかと感じていた。これらのことから、両校ともに児童が「考えの形成」を行うことに課題があると捉えて研究を開始した。

一方、同時期に指導者に行った「読むこと」の授業づくりに対する質問紙調査では「国語科の授業をどのように構想すればよいのかを知りたい」や「文章を読むうえでこういった語句に着目するとよいかわかりたい」という意見があった。

そこで、本研究では児童が語彙を豊かにし、自分の考えを形成するために、「読むこと」の学習において、言語活動の中に、「考えの形成」の内容を具体的に描き、取り上げる語句を明確にして単元構想を行うなどの語句に着目して考える授業づくりに取り組んだ。

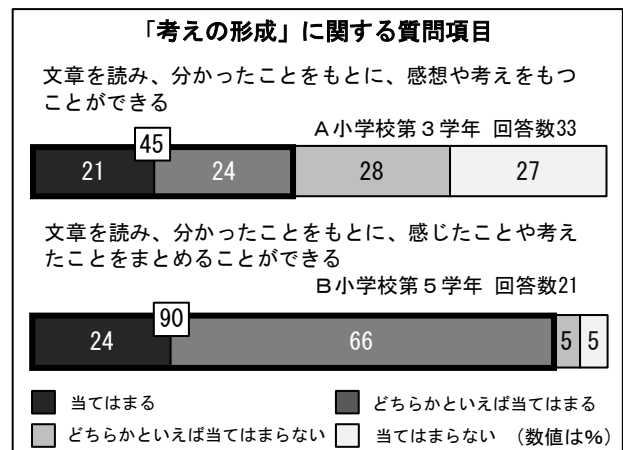


図4 6月上旬に行った児童質問紙調査の結果

2 「語彙を豊かにする場」を意図的・計画的に設定する単元構想

(1) 言語活動の中に、「考えの形成」の内容を具体的に描き、取り上げる語句を明確にする

第3学年2学期の単元「物語の感想を短くまとめて交流しよう」(教材名「ちいちゃんのかげおくり」光村図書)において、「教材分析シートⅢ」を用い、以下のように言語活動を設定して「考えの形成」の内容を具体的に描き、取り上げる語句を明確にした(p.6の図5)。

1学期の「読むこと」の学習で、児童は様子を表す語句に着目して物語を読み、登場人物の心情や場面の様子を具体的に想像した。そして、気に入った場面を見つけ、自分の体験などと結び付けて感想をもつことができた(p.6の図5のA)。本単元では、学習指導要領の第3学年および第4学年「読むこと」の指導事項「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと」を指導の重点とし、登場人物の心情に寄り添いながら読んだり、物語の複数の叙述を結び付けて読ん

だりすることで、物語を深く理解して感想をもつことをねらいとした。これらを踏まえ、「物語の感想を『〇〇な物語』というキャッチコピーとして表し、その理由を友達に伝える」という言語活動を設定した。感想をキャッチコピーという短い言葉にまとめることで、児童は用いる語句を厳選する必要があること、そのキャッチコピーに表した理由を伝えることで、自分と友達の感じ方の違いに気付きやすくなることから、この単元の学習にふさわしい言語活動であると考えた。この言語活動を設定することで、感想をキャッチコピーとして表し、その理由を書くことが、「考えの形成」の内容として具体的になった(図5の[B])。

そのうえで、「感想を表すための語句」や、物語を読み進める際に「登場人物の心情や場面の様子を具体的に考えるために着目したい語句」をこの単元で取り上げる語句として書き出した(図5の[C])。

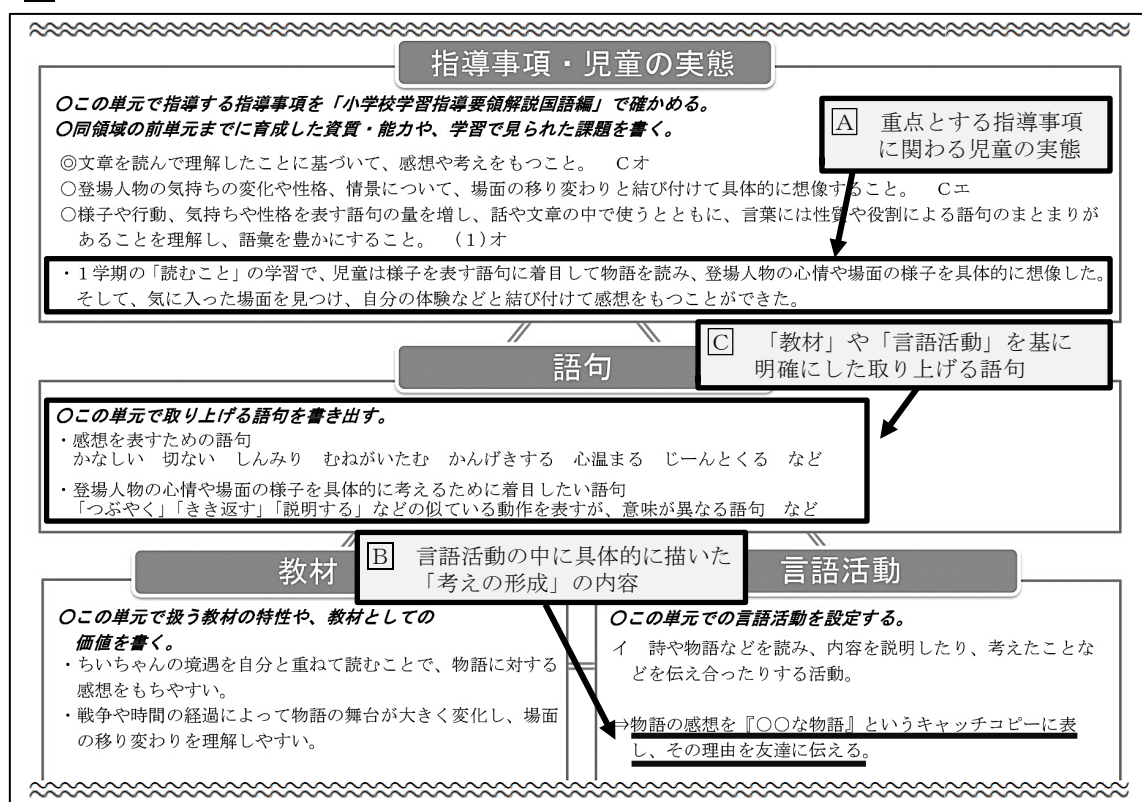


図5 第3学年「物語の感想を短い言葉にまとめて交流しよう」の「教材分析シートⅢ」(一部)(枠線、下線は筆者)

(2) 「語彙を豊かにする場」の学習を「考えの形成」につながるように意図的・計画的に設定する

7ページの図6の「単元プランシートⅡ」は、図5の「教材分析シートⅢ」を基に「語彙を豊かにする場」の学習を「考えの形成」につながるように意図的・計画的に設定したものである。

この単元では、第9時をこれまでの読みを基に「考えの形成」を行う時間とした(p.7の図6の[A])。そして、「考えの形成」に特につなげる時間を第4時、第5時、第7時とした(p.7の図6の[B])。

第4時、第5時は児童が語句に着目して文章を読み、登場人物の心情や場面の様子を具体的に想像する学習活動を設定し、物語の理解を深めることをねらいとした。そして、場面ごとに心に残った部分や感想を蓄積することで、「考えの形成」を行う際に心に残った場面を中心に感想をまとめられるようにした。第7時は第四場面の登場人物の心情と読み手としての心情を考え、それらを比較する学習活動を設定し、物語を読む立場によって感想が異なることに気付くことをねらいとした。

そのうえで、「語彙を豊かにする場」として、第1時には「感想を表す語句」を増やす学習活動を、第3時には文章を読み進める際に、「登場人物の心情や場面の様子を具体的に考えるために着目したい語句」について理解する学習活動を設定した(p.7の図6の[C])。

単元名 「物語の感想を短い言葉にまとめて交流しよう。」				
「考えの形成」の内容			取り上げる語句	
物語の感想を「○○な物語」というキャッチコピーとして表し、その理由を書く。			・感想を表すための語句 ・「言う」に置き換えられる語句(類義語) 「つぶやく」「きき返す」「説明する」など	
次	時	学習のねらい	学習活動	具体的手立て
1	1	単元の目標を知り、初発の感想を書く。	・P11の扉のページを確認し、全文を通読し、初発の感想を書く。 ・感想を表すための語句を知り、語句の量を増す。	・初発の感想に書くことが明確となるように、「心に残ったこと」「読んで考えたこと」「分からなかったこと」の観点を示す。 ・感想を表すための語句を知り、語句を増やすことができるように、意味ごとに整理した語句のリストを配付する。
	2	初発の感想を交流し、これまでの学習を基に学習計画を立てる。	・初発の感想を交流する。 ・指導者が作成したキャッチコピーの例を見て、学習の見通しをもつ。 ・既習事項を振り返り、学習計画を立てる。	・指導者が作成したキャッチコピーの例を見せ、児童が単元のゴールを具体的にイメージできるようにする。 ・「きつきの商店」「まいごのかぎ」の学習内容をまとめたものを提示し、学習の進め方を考えられるようにする。
2	3	登場人物の心情や場面の様子を具体的に考えるための語句を知る。	・「言う」に言い換えられる語句に着目し、登場人物の心情や場面の様子を想像する。	・「つぶやく」「きき返す」などの該当箇所を「言う」に置き換えて範読し、取り上げる語句について着目できるようにする。
	4	語句や叙述に着目して、自分なりに物語を読み進める。	・第一～三場面までの出来事や登場人物の心情を想像しながら読む。 ※場面ごとに心に残った部分と感想を書きためておく。	・言葉に着目する観点として、よく出てくる言葉やその場面を象徴する言葉を示し、児童がどの言葉に着目するのか考えられるようにする。
	5	場面と場面を比べて人物の様子や出来事のちがいを考える。	・第一場面と第四場面のかげおくりを比べ、共通点や相違点を話し合う。	・第一場面と第四場面のかげおくりの叙述を1枚のワークシートにまとめ、共通点や相違点を比べながら読めるようにする。
	6	物語を読む立場によって、感想が違ってくることに気付く。	・第四場面の登場人物の心情と、読み手の心情を比べて考える。	・第四場面の「登場人物の気持ち」・「第四場面を読んだ、自分の気持ち」の2点を示して、それぞれ考えられるようにする。
3	7	第五場面の役割について話し合う。	・第五場面を読み、第四場面までと比べて、第四場面にある似た表現を見つけたら、第五場面の役割について考える。	・時間の流れを表す「それから何十年」や、「きらきらわらう」という語句などを取り上げ、第五場面の役割について考えられるようにする。
	8	物語の感想をキャッチコピーにまとめる。	・読んで心に残った場面を中心に、物語の感想をキャッチコピーに表し、その根拠をキャッチコピーに込めた思いを書く。	・初発の感想や、書き溜めた感想を振り返り、心に残った場面を選ぶようにする。 ・語句のリストを活用し、自分の感想にふさわしい語句を選ぶようにする。
10	9	まとめた感想を交流し、感じ方やまとめ方のちがいに気付く。	・友達と感想を交流し、感じたことや気付いたことをまとめる。 ・学びの足あとシートで単元全体の振り返りを行う。	・付箋を用いて気付いたことを「感じ方の違い」「まとめた感想のよさ」に分類できるようにする。

図6 第3学年「物語の感想を短い言葉にまとめて交流しよう」の「単元プランシートⅡ」(一部)(枠線は筆者)

3 語彙を豊かにし、考えを形成することができる授業の実際

(1) 「語彙を豊かにする場」の学習を基に、語句に着目して文章を読み進めた実践

図6の第3時は「語彙を豊かにする場」の学習として、児童が取り上げる語句に着目できるように、指導者は教科書を閉じさせ、「つぶやきました」「きき返しました」などの語句を「言いました」に置き換えて範読を行った(図7)。範読が進むにつれて、児童から「何かが違う」「『言いました』じゃなかった気がする」などの発言があり、置き換えに気付いている様子だった。置き換えた語句を全体で確認した後、「つぶやく」について意味調べを行い、「独り言」という意味を確認した。そして、その意味を基に、実際に声に出して「つぶやく」と「言う」の違いを実感した。

この学習を通して、児童は「動作は似ているが、意味の異なる語句」について理解するとともに、物語を読み進めるときに、語句に着目して考えることで登場人物の心情や場面の様子を具体的に想像できることに気付いた。その後の学習で用いたワークシートが図8である。児童aは「ひとりぼっち」という語句に着目して、語句から考えたことや場面の感想について考えていることが分かる。

8ページの図9は、児童aが第9時で作成したキャッチコピーである。理由として書いた「キャッチコピーに込めた思い」には、図8のワークシートで着目していた「ひとりぼっち」という語句が用いられている。そして「離れ離れになった家族とかげおくりで出会う」という、文章を読んで理

つぶやきました
きき返しました
たずねました
せつめいしました
注意しました
やくそくしました
数えだしました

図7 「言いました」に置き換えた語句

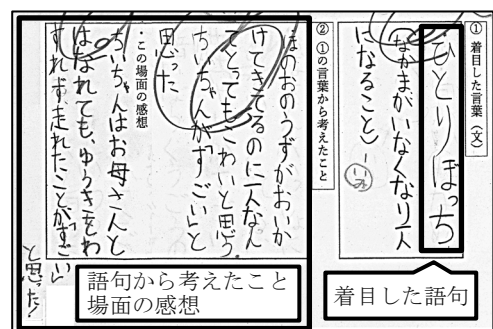


図8 児童aのワークシート(一部)(枠線は筆者)

解した物語の展開に基づき、「普通ではありえないことが起きた」と自分の体験と結び付けて「感激した」と感想をもつことができたことが分かる。児童a

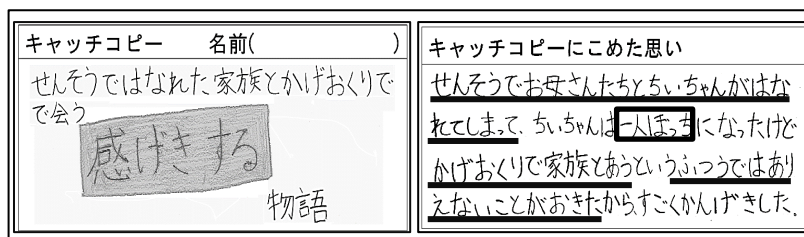


図9 児童aのキャッチコピーと「キャッチコピーに込めた思い」(枠線、下線は筆者)

以外にも、多くの児童が物語の展開や内容を「キャッチコピーに込めた思い」に理由として書き、文章を読んで理解したことに基づいた感想をもつことができていた。このように「語彙を豊かにする場」の学習を基に、語句に着目して文章を読み進めたことで、児童は着目した語句を中心に自分の考えを形成することができた。

(2) 児童が見通しをもって考えを形成できた実践

第5学年2学期の単元「考えたことを短歌にまとめよう」(教材名「たずねびと」光村図書)では、表1に示すように、「読むこと」の指導事項「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を指導の重点とし、言語活動を設定して「考えの形成」の内容を具体的に描き、取り上げる語句を明確にした。

表1 第5学年「考えたことを短歌にまとめよう」の「単元プランシートⅡ」から一部抜粋

重点とする「読むこと」の指導事項	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
考えの形成	全体像を踏まえ、物語を読んで感じたことや考えたことを短歌と解説文にまとめる。
取り上げる語句	登場人物の心情を考えるための語句 「頭がくらくらする」「気が遠くなる」など

1学期の実践では、感想をまとめる際に「何を書けばいいのかわからない」と困る児童が多く、考えを形成することに課題が見られた。そこで、2学期の本単元では指導者がゴールを具体的に示し、児童が単元の見通しをもって「考えの形成」ができるように単元を構想した。

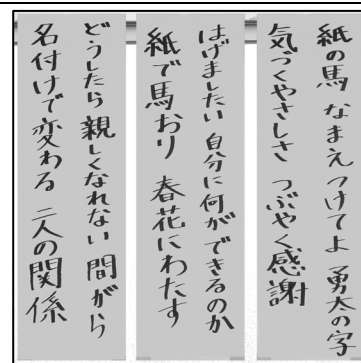


図10 1学期の教材を基にして指導者が作成した短歌

まず、児童は教科書を読み、「物語の全体像を捉え、考えたことを伝え合おう」という単元の目標を確認した。そして、指導者が、考えたことのまとめ方として、1学期に学習した教材「なまえつけてよ」(光村図書)の内容を基に「物語の全体像を短歌にまとめたもの」の例として三つ提示した(図10)。児童は、指導者が提示した例を見て、物語の全体像を捉えるためには、「登場人物の心情」や「登場人物同士の関係」、「それらが変わるきっかけ」などを読み取っていくことが必要であることに気付いた。図11はこれらを踏まえて指導者と児童が作成した学習計画である。単元のゴールを具体的に示し、児童が学習計画を立てることで、児童は物語の全体像を考えるために、語句に着目して文章を読み、登場人物の心情を考える学習が必要であるという見通しをもつことができた。

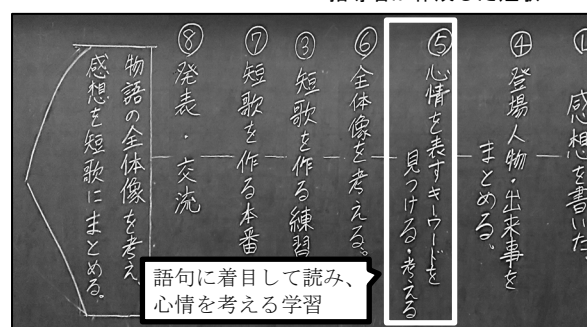


図11 指導者と児童が作成した学習計画(枠線は筆者)

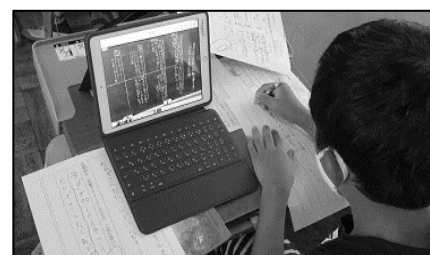


図12 1人1台端末を活用し、考えたことを短歌にまとめている様子

「考えの形成」を行う時間では、児童はこれまでに自分たちが学習してきたことを振り返り、その際には、学習者用端末に保存しておいた板書の画像を確認したり、内容の読み取りで用いたワークシートを見返したりした。

このように、「語彙を豊かにする場」の学習に、1人1台端末を活用したことで児童は語句の理解を深めることができ、その語句を用いて考えを形成することができた。

4 語彙を豊かにする日常的な取組

(1) 「語句の量を増すこと」を目的とした取組

教科書(光村図書)の巻末資料「言葉の宝箱」に挙げられている語句などを活用して行う、「ことのは道場」の取組を研究協力校の2校において継続して実践した。「ことのは道場」とは、指導者がお題となる語句を提示し、児童が語句の意味を辞典などで調べ、その語句を用いた文作りをする取組である。児童dはこの「ことのは道場」の取組で新しい語句やその意味を知り、文章の中で適切に用いて、学んだ語句を「実際に使える語句」にしていた(図16)。

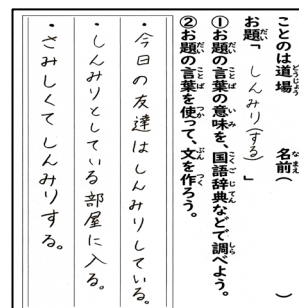


図16 児童dのワークシート

また、授業や「ことのは道場」で学習した語句は教室の側面に掲示し、児童が普段から語句を意識できるようにした(図17)。学習した語句が身近にあることで、作文やスピーチの際に参考にしたたり、同じ語句に再び出合った際に「前に学習した語句だ」と、振り返ったりしている様子が見られた。

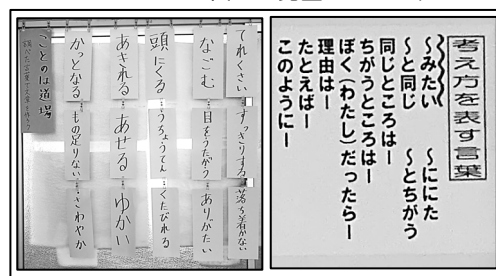


図17 学んだ語句の教室掲示

(2) 1人1台端末を活用した「語句のまとまりや関係、構成や変化について理解すること」を目的とした取組

「ことのは道場」などで語句を増やす取組と並行して、複数の語句を分類し、語句のまとまりを理解する取組についても繰り返し行った。図18は、心情を表す語句を図に合うように分類する際に用いたワークシートである。

図に合うよう言葉をなにかまけよう

うれし
こわい
おどろき
おもしろい
かたじけなく
きもちわるい
きもちいい
きもちわるく
きもちよく
きもちわるく
きもちよく

この取組では、自分の端末を用いて語句の分類を行った。一旦分類をした後、国語辞典で意味を調べたり、他の児童と自分の分類を比較して参考にしたりと、児童は、試行錯誤しながら取り組んでいた(図19)。中には図に合うように自分で新しく語句を追加している児童もいた。指導者がその語句を全体交流となった。

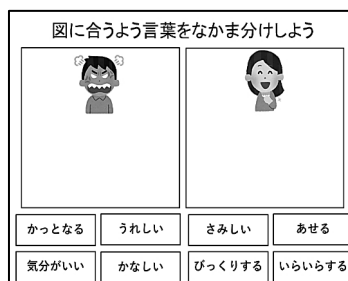


図18 語句の分類に用いたワークシート



図19 1人1台端末を用いて語句を分類している児童の様子

5 語彙を豊かにし、考えを形成することができた児童の姿

(1) 語彙を豊かにし、考えを形成できたことを児童が実感している様子

11ページの図20は、7ページに取り上げた単元「物語の感想を短くまとめて交流しよう」(教材名「ちいちゃんのかげおくり」光村図書)において、語彙を豊かにし、考えを形成することができたことを児童が実感している様子である。児童eは初発の感想を書いた第1時の振り返りで「今日の表現が残念と悲しいしか思いつかなくて、それしか使わなかったから他の言葉も使いたい」と書いており、感想に多様な語句を用いたいという思いが見られる。

そして、この児童は、「語彙を豊かにする場」の学習を通して、「切ない」という語句を知り、

それを用いて感想をキャッチコピーにまとめることができた。さらにキャッチコピーに込めた思いからは、文章を読んで理解した、ちいちゃんの家族全員が死んでしまうという物語の展開に基づき、「切ない」と感想をもっていることがうかがえる。単元終末には、「このちいちゃんのかげおくりで、いろいろな言葉を初めて知った。またその言葉でキャッチコピーを書けた」と振り返っており、語彙を豊かにし、考えを形成できたことを実感している様子がうかがえる。

図20 語彙を豊かにし、考えを形成できたことを児童が実感している様子(傍線、下線は筆者)

(2) 児童の意識の変容

図21は研究協力校の児童に実施した質問紙調査の結果である。A小学校は「文章を読み、分かったことをもとに、感想や考えをもつことができる」の項目に、肯定的に回答した児童の割合が45%から69%に増加している。B小学校は「文章を読み、分かったことをもとに、感じたことや考えたことをまとめることができる」の項目に「当てはまる」と回答した児童の割合が24%から60%に増加している。

表3の児童の振り返りからは、語句の意味を調べたり、調べた意味を基に、語句を活用したりすることに対する意識が高まっていることがうかがえる。また、考えをもったり、考えをまとめたりできるようになったと感じていることが分かる。これらのことから、児童は語彙を豊かにし、自分の考えを形成することができたと感じていることがうかがえる。

そして、表4は指導者が感じる児童の変容である。指導者も児童が語彙を豊かにし、考えを形成できるようになったことを実感していることが分かる。

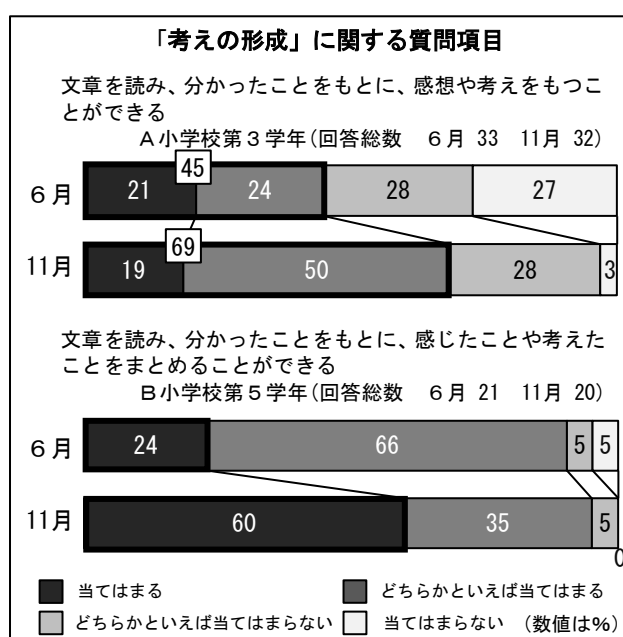


図21 児童質問紙調査結果の比較

表3 児童の振り返り(一部)

語彙	・「次に」「それから」などの言葉が役立つと思った。(第3学年) ・将来のためにいろいろな言葉の意味や使い方を知りたい。(第5学年) ・新しい言葉の意味を辞典などで調べると次に生かすことができる。(第5学年)
考えの形成	・登場人物の気持ちを考え、自分の意見がもてた。(第3学年) ・自分で考える力が身に付いた。(第5学年) ・考えをまとめられるようになった。(第5学年)

表4 指導者が感じる児童の変容(一部)

語彙	・感想を書くときに、言葉を調べてから書き出したり、新しく知った語句を文に使ったりと、学んだ語句を生かしている児童が増えた。(第3学年指導者) ・「そして」「しかし」など語句に着目して文章を読もうとする児童が増えた。(第5学年指導者)
考えの形成	・単元の始めにゴールを具体的に提示することで児童が見通しをもち、学習に意欲的に取り組めるようになった。(第3学年指導者) ・ゴールを具体的に示すことで、考えをまとめる際に文の書き出しや、内容について支援を必要とする児童が少なくなり、考えを書くことに慣れてきた。(第3、第5学年指導者)

6 授業づくりに対する指導者の意識の変容

指導者に取組を振り返って気付いたことを尋ねた(図22)。指導者は、「読むこと」の学習において、児童が文章の内容を深く理解するためには、指導者がどの語句に着目するのかを明確にしておくことが大切であることを実感していた。また、児童が考えを形成するためには、言語活動を工夫したり、「考えの形成」の内容を具体的に描いたりすることが大切であることも実感していた。

- ・指導者が、この単元では「この語句を大事にする」ということを貫いて指導することが大切だと感じた。
- ・児童が語句に着目して文章を読むことで、登場人物の心情や場面の様子が具体的に想像できることを実感した。
- ・言語活動を児童にとって魅力あるものにすることで、意欲的に学習に取り組むことができるようになって感じた。
- ・単元のゴールの例を作成することで、指導者自身が見通しをもつことができ、児童が考えを形成するために必要な学習活動を設定することができると感じた。

図22 指導者の感想(一部)(下線は筆者)

Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

- (1) 単元構想において、指導者は「語彙を豊かにする場」を設定する過程で、「考えの形成」につながる学習活動を考えることができた。その結果、児童が単元の見通しをもち、考えを形成することができた。
- (2) 「語彙を豊かにする場」の学習を基に、語句に着目して文章を読み進めることで、児童は語彙を豊かにし、自分の考えを形成することができた。
- (3) 1人1台端末を活用して「語彙を豊かにする場」の学習や日常的な取組を行うことで、児童は語句の理解を深めたり、語句をまとまりとして理解したりするなど、語彙を豊かにすることができた。

2 今後の課題

- (1) 確かな学力の向上のためには、さらに児童が語彙を豊かにすることが重要であり、「読むこと」の学習で身に付けた語句を他領域や他教科でも活用できる場を設定していく必要がある。
- (2) 児童が学んだ語句を用い、日常生活の中でも自らの考えを適切に表現できるようにするためには、指導者が児童の語彙が豊かになった様子を客観的に見取り、指導の充実を図る必要がある。

文

献

- 1) 文部科学省中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」、平成28年(2016年)
- 2) 滋賀県教育委員会「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン 取組の重点」、令和2年(2020年)
- 3) 滋賀県教育委員会「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン(3年目) 取組の重点」、令和3年(2021年)
- 4) 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」、平成30年(2018年)

研 究 協 力 校

甲賀市立大野小学校
守山市立小津小学校

研 究 協 力 員

甲賀市立大野小学校
守山市立小津小学校

高居 陸
井藤 伸平